

れきし 散歩

亀山城多門櫓の謎 建築年代の巻

亀山城多門櫓

亀山城多門櫓は、亀山城の遺構としては当時の位置に残る唯一のもので、石垣とともに三重県史跡に指定されています。平成23～25年に実施された復原修復工事(「平成の大修理」)により、建築当初の姿に復原されました。

私たちが現在見ている姿は、現多門櫓の建築当初の姿であるわけですが、建築当初とは実際いつのことなのでしょうか。



亀山城多門櫓

多門櫓の創建

多門櫓は石垣と建造物が一体となっています。まず石垣は、城主となった岡本良勝により、天正18(1590)年に築かれたとされています。しかし、その石垣の上に当時どのような建造物があったのかについては、資料が全く確認されていません。

亀山城本丸は、寛永10(1633)年、将軍家光が上洛した際、整備が行われています。この時に作成されたと考えられる絵図では、既に存在している建造物と新築する建造物が色分けされており、多門櫓の位置には「御長屋」として新築する建造物が描かれています。これが、資料で確認できる最初の建造物で、建造物の形も現在の多門櫓とよく似ています。このことから、寛永10年を多門櫓の創建と考えています。

最低一度の改築

しかし、この創建多門櫓が、現在まで引き継がれたかというところではありません。



絵図に描かれ「平成の大修理」時に行った発掘調査

ている建造物は、現多門櫓と形はよく似ていますが、規模が若干異なっています。また、「平成の大修理」時に行った発掘調査では、現多門櫓と規模・形状は似ているものの、柱間寸法が異なる前身建物があったことが確認されているからです。

現段階では、この前身建物が創建多門櫓にあたるかと考えていますが、創建多門櫓から現多門櫓への改築時期は確認できていません。

安政の地震による修理

嘉永7(1854)年に発生した、いわゆる安政の地震では多門櫓も被害を受けました。被害を記した絵図では、多門櫓について「此櫓大破」との記載があります。また、「平成の大修理」時には鬼瓦から「安政三年」「鬼板瓦壺組取替」のヘラ書きを発見しました。

現多門櫓は、安政の地震で被害を受け、その復旧として鬼板瓦の取り替えを含む修繕が行われたわけです。このことから、嘉永7年には確かに現多門櫓が存在していたことがわかり、この年が現多門櫓の建築年代の下限と考えることができます。



鬼瓦のヘラ書き

現多門櫓の建築年代

現多門櫓の鬼瓦からは「惣武具」という建造物名称も確認されています。また、「惣武具」の文字は、建築当初の柱でも確認されています。現多門櫓の建築には、安政地震時と同じ城主石川氏配下の技術者集団がかかわっていたのではと推測しています。

このことから、現多門櫓の建築年代は、石川氏が入封した延享元(1744)年から地震被害を受けた嘉永7(1854)年の間(江戸時代後期)ということになりますが、これ以上の絞り込みは現段階ではできていません。